

- 1 報告地区 : 檜山地区
2 事例報告学校名 : 今金町立種川小学校
3 報告者 : 校長 佐藤 等
4 キーワード : 地域の教育力を生かし、地域とともに歩む学校づくりの取組

1 はじめに

本校は児童数の減少により、いずれは存続に係っての協議が進められていくことが予想されていた。しかし、町の主導で、平成26年4月に特色ある複式教育の在り方を検討する「小規模特認校制度検討委員会」及び「種川小学校小規模特認校制度種川プロジェクトチーム」を設置し、その後、小規模特認校として認定され、平成27年度より町内全域において児童募集を開始することになった。現在は全校児童19名中7名がこの制度を利用して通学している。また、今年8月からはコミュニティ・スクールを導入しており、小規模校だからこそ取り組める地域の教育力を生かし、地域とともに歩む学校づくりの取組を行っている。

2 小規模特認校制度からコミュニティ・スクールにつながる動き

平成28年1月、本校及び小規模特認校推進協議会役員と教育委員会の懇談が行われ、コミュニティ・スクール（以下、CS）導入に向けての動きがスタートした。その後、CS先進地視察やCSマイスターを招いての講演会の開催等を経て、6月に町内の関係規則が施行され、8月に第1回学校運営協議会が開催されることとなった。

この短期間で導入に至った一番の要因は、地域が町の前向きに取り組む姿勢を真剣に受け止めたことがあるのはもちろんであるが、以前より積み重ねてきた地域と学校の深いつながりがある。

(1)ふるさと先生の活躍（写真①）

本校では、「ふるさと先生」ということで、地域の方を講師として招いた授業を行う取組をかなり前から進めている。今年度も書道、野菜栽培、水泳、しいたけ栽培等、幅広い領域において力強い協力をいただいている。地域性を生かした内容を地域の方に指導していただくのは、児童には生きた深まりのある学びとなっており、ふるさとの良さを感じる時間となっている。



写真①

(2)学校行事への支援（写真②）

「地域の核となる存在としての学校」という認識が地域にはあり、PTA・地域の方々の多くが運動会、学芸会をはじめとした学校行事へ参加することを厭わず、学校行事＝地域行事という考えが引き継がれている。今年度の運動会も多くの地域住民が参加及び応援に駆けつけてくださり、終了後の懇親会も盛会裏に終えることができた。また、日常の教育活動においても足を止めて児童に声をかけてくださる方が多くいる。



写真②

(3)環境整備への協力

行政を頼るだけではなく、自分たちの地域のことは自分たちで管理するという意識が強くあり、そのことが学校施設の修繕や周辺の環境整備にもつながっている。春と秋には、地域総出で学校周辺の草刈り等を行い、児童が安心・安全に過ごすための知恵も貸して下さる。（写真③）



写真③

これらのように、本校のCSは、大きく分けると、教育活動を支援するスタイルと児童の安心・安全の確保を支援するスタイルという二つになる。この他にも、地域と学校との深いつながりを感じる活動はあり、小規模校においては、このつながりなしでは学校の存続は厳しい、と言っても過言ではない活動が土台となっている。

そのような中、本校においても当初は、「今までやってきているのだから、今さらCSを導入しなくても…」という声が挙げられた。しかし、「地域の学校だから」「子どものためだから」という『応援団』として意識をもっていただくことで、より具体的な目標の下に、その意義（期待される成果）を見出すためにCSを導入することにしたのである。

3 学校・地域・家庭の期待する学校づくり

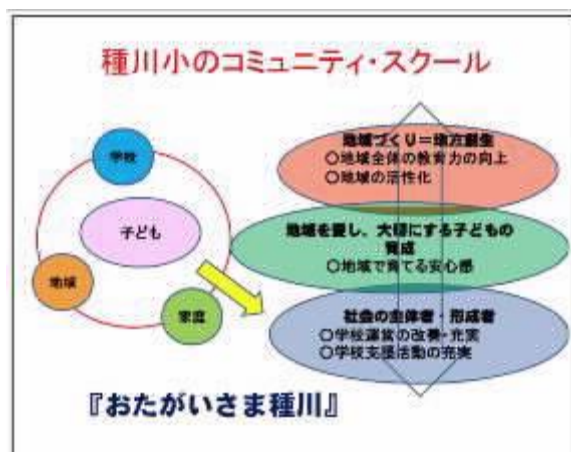
前述のとおり、多くの小規模校においては、地域と密接な関係を保ちながら、「地域あつての学校」として学校経営を推進している現状がある。その上でCSを推進していくためには、その意義（期待される成果）について、地域・家庭と共有する必要がある。本校においては、次のことを共有することとした。

(1)子どもが社会を生き抜く力の育成

学校・地域・家庭が期待する子ども像の実現を目指すこと。そのために子どもを取り巻く教育環境の充実を目指すこと。これらのことを基本的な事項として共有し、協働的な取組を進めるという確認をした。学校経営方針を受け、子どもたちに身に付けたい資質・能力をグローバルとローカル両面から導き出し、地域の子どもは地域の手で育てるという意識の再確認を行ったのである。

(2)地域の教育力の向上

子どもの教育については、学校・地域・家庭の三者の協力体制と互いの理解が前提であると考えた。そこで、学校・地域・家庭において、各々がもつ教育力を確かめるとともに、その内容や発揮する方法等を改善するように努めた。また、互いの教育力をつなぎ合うことが、より効果的に子どもたちへ望ましい資質・能力を身に付けさせることにつながると考えた。互いの役割を認識しながら、関わり合い、つなげていくことで、各々の教育力は向上していく。



(3)地域の活力の向上

市街地周辺の地域においては、学校の存在自体がその地域の活力に大きな影響を与えることになる。同様に、その学校が地域へどれほど開いているか、地域の方がどの程度学校の動きを知っているかが、一体感の度合いを示すことになる。本校において、小規模特認校制度導入よりもち続けてきた理念は、地域力を生かすということであった。地域居住者における高齢者の割合が増える中、その地域力は低下の傾向にある。この地域力を取り戻すには、新たに、学校を核とした地域内のネットワーク形成を図るとともに、リーダー的な存在として、地域を守る学校づくりを推進する必要がある。「おら方の学校」づくりを学校・地域・家庭の三者で進めることは、これまで生かし切れていない地域の力を引き出し、地域の在り方を再構築する活力を生み出し、向上させることにつながるのである。

4 おわりに

今年度は、町内において本校のみCSをスタートさせたが、次年度は町内全ての学校においてCSをスタートさせる予定となっている。学校規模や校種は異なるが、今後は本校における取組の成果や課題について交流を図り、町全体におけるCSの定着に寄与していきたいと考えている。